

聖書日課 『からし種』 2024.3.10-3.17

<p>3月10日 (日)</p> <p>詩編 117編</p>	<p>「すべての国よ、主を賛美せよ。すべての民よ、主をほめたたえよ」(1節)。全詩編で最も短いこの詩編は「主をほめたたえよ」と全世界の民に呼びかける。使徒パウロはこの詩編を引用して、ローマの人びとに福音宣教の使命を熱く語りかけた(ローマ 15:11)。今日も主なる神は私たちの小ささを越えて世界に向かって語りかけ、すべての人を礼拝に招いている。</p>
<p>11日 (月)</p> <p>詩編 118編</p>	<p>「家を建てる者の退けた石が／隅の親石となった。これは主の御業／わたしたちの目には驚くべきこと」(22-23節)。この詩編はエズラ時代に神殿再建を成し遂げた人々が奉獻礼拝でささげた賛美である。「破綻」を体験した者だから賛美できる歌がある。主の十字架の前に「破綻」した弟子だから語れることがある。わたしは何を賛美し、語ることができるだろうか。</p>
<p>12日 (火)</p> <p>詩編 119編 1-32</p>	<p>「わたしの目の覆いを払ってください／あなたの律法の驚くべき力に／わたしは目を注ぎます」(18節)。最も長大な 119編の主題は「神の教えはいのちの源」。人間の目に「まっすぐ」に見えて「死」に向かう道がある(箴言 14:12)。「欲」が邪魔をして「いのち」に向かう道を私たちは選びきれない。今日「目の覆い」を払ってくれる神の教えを求めて始めたい。</p>
<p>13日 (水)</p> <p>詩編 119編 33-64</p>	<p>「むなしいものを見ようとすることから／わたしのまなざしを移してください。あなたの道に従って／命を得ることができますように」(37節)。人間はどうして「むなしいもの」「危ういもの」に心惹かれるのだろうか。神は人間の弱さを思いやり受け止めてくださる優しい方であると同時に、「あなたが死んでよかろうか！」と厳しく戒めて的外れを正してくださる方である。</p>

メール配信登録メール senfkorn.obc@gmail.com

大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2024.3.10-3.17

<p>14日 (木)</p> <p>詩編 119編 65-96</p>	<p>「卑しめられたのはわたしのために良いことでした。わたしはあなたの掟を学ぶようになりました」(71節)。失敗や挫折を通して心を深く耕されていくように、「卑しめられる」という不条理の痛みの経験においても、私たちが「良いこと」を見出せるように神は導いてくださる。神の「掟」は私たちを束縛するためではなく、私たちを「良いこと」に導くためのもの。</p>
<p>15日 (金)</p> <p>詩編 119編 97-120</p>	<p>「あなたの御言葉は、わたしの道の光／わたしの歩みを照らす灯」(105節)。方角も見失うほどの真っ暗闇に包まれ、次の一步をどこに踏みだせばよいか分からない不安は絶望的なものがある。十字架の主は、そのような状況にある一人ひとりの「光」、歩みを照らし出す「灯」として来てくださった。この方と共に歩む「希望の物語」に私たちは招き入れられている。</p>
<p>16日 (土)</p> <p>詩編 119編 121-152</p>	<p>「御言葉が開かれると光が射し出で／無知な者にも理解を与えます」(130節)。疲れ、焦燥、不安、憤怒、不信の中に沈み、立ち上がる力を失った一人ひとりに、今日も神の御言葉は与えられている。イエス・キリストそのものが神の御言葉として一人ひとりの傍らを生きてくださっている。この方を通して射し込む光に向かって、一步を踏み出すことができるように。</p>
<p>17日 (日)</p> <p>詩編 119編 153-176</p>	<p>「あなたの御手はわたしの助けとなるでしょう／あなたの命令を選び取ったのですから」(173節)。私たちは、主に無理矢理従わされたのではなく、命を得るために自分から主のご命令を選び取った者。それなのにいつも小羊のように迷い出してしまう私たちを探し出し、御手を伸べてくださる主イエスを知るとは「いかに幸いなことでしょう」。</p>